

テーマ【元気パワー リリコ大好き】

神奈川県 藤沢市立高谷小学校
関谷 孝 先生
4年生「桜咲くクラス」32名
社会、理科、総合的な学習の時間

■ 実践のねらい：

- 4年生で学習する単元と環境教育に栽培活動を連動させ、人が生きていくために必要な「水」「空気」「食べ物」の大切さを理解する。
- 生活や学習の中から子どもたちの学びの好奇心を高め、その学びを活かしていくよう、多角的な取り組みを行なう。
- 苗への愛情や思いを深め、豊かな感性を育む。

■ 取り組みの概要と流れ：

- 一人一鉢ずつ栽培し、「りりこ」を自分の友達として扱うことにした。観察時には、気づいたことだけでなく、「りりこ」への思いも書くよう促した。

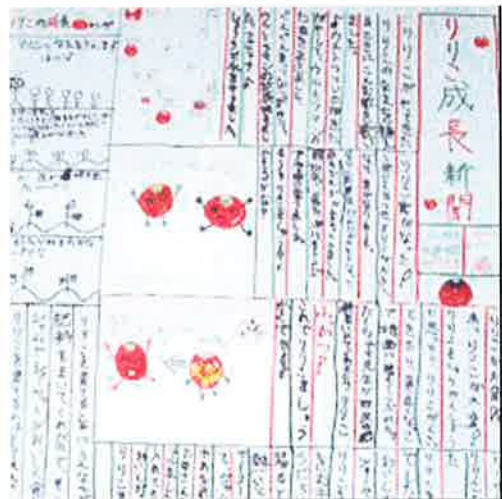
【児童の観察カードより（抜粋）】

- ・花はあまりなかったけど実はありました。トマトは緑しかないけど赤もちゃんとありました。ぼくも赤がいっぱいになるまでおうえんします。
- ・葉がギザギザで草丈が小さい。まだふた葉がのこっている。これからも育てていくのでがんばっておいしい実をならしてね。

- 栽培過程で発生したトラブルには、どうしたら良いかを考え、パソコンの授業時間を利用して調べ学習を行なった。
- これまでの体験を元に、様々な視点を盛り込んだ「トマト新聞づくり」を行なった。
- 夏休みには、地域の消費生活展で環境劇を上演し、これまでの環境学習の成果を発信した。



夏休みに地域の消費生活展に参加し、環境劇を発表



- 夏休み中に収穫したトマトを冷凍保存しておき、地域の人や保護者と一緒にシャーベットやジャム作りを行なった。



- これまでの学習をもとに「りりこカルタ」を作った。



■ 取り組みによって得られた成果：

- 「りりこ」を友達として扱うことで、やさしい気持ちが育ち、困難にぶつかったときには自ら考え、実行する知恵を学ぶことができた。
- 周囲の人たちと関わりながら学習を積み重ねていったことで、収穫の喜びが、周りの人たちへの感謝の気持ちにつながった。
- 毎回の観察カードや新聞作り、カルタ作り、環境劇など、子どもたちの実体験に基づくことをテーマにしたことで、書きたい気持ちが自然とわき、表現する力がついた。

■ モグモからのメッセージ：



4年生で学習する環境教育にさまざまな活動が組み込まれていて、たくさんの“体験”が詰まった取り組みだね。ひとつの取り組みが、次の取り組みへとつながっているから、みんなの興味や理解もグンと深まっていったんだと思うよ。

「りりこカルタ」は、短い文章の中にみんなの思いがとってもよく表われているね！観察カードも、新聞も、みんなのやさしさがよ〜く伝わってくる、あたたかい作品ばかりだったよ！周りの人たちとの関わりの中で、感謝や思いやりの気持ちが、自然と育っていったんだね。